

令和7年度の取組実施状況

熊野川減災協議会

取組内容

柱①水害リスク情報等の更なる充実と自主防災意識の向上による安全な住民避難等の実践
＜4＞水害リスク情報の充実・周知
＜7＞防災意識の向上に資する出前講座や水害教育等の推進

新宮市

- 「Web版 新宮市ハザードマップ」や紀伊半島大水害DVD等を使用した出前講座
- 郵便局との相互協力協定による、市内の全郵便ポストへのQRコード掲載

継続

熊野川の洪水浸水想定や避難場所について、市民に理解を図るため、出前講座や家具転倒防止器具取付時の職員訪問等を通じて周知を継続している。出前講座は、自治会や各学校等から依頼があった場合に実施し、「Web版ハザードマップ」や紀伊半島大水害DVDを見せながら、地区の浸水想定区域や過去の浸水実績を確認し、周知活動を行っている。

なお、令和6年度に、Web版ハザードマップにおいて4カ国⇒5カ国語(タガログ語追加)対応を、Web版及び紙版ハザードマップにおいて県中小河川の浸水想定を追加をおこなった。

その他、郵便局との相互協力協定により、QRコードを市内の全郵便ポストに掲載している。

●出前講座(Web版ハザードマップ)



●出前講座(紀伊半島大水害DVD)



●郵便ポストへの掲載



Shingu River System - Kumano River/Ichida River anticipated inundation zones (max. anticipated scale) - Shingu City

Hazard Map

Map

Flood and landslide evacuation map

Anticipated flood inundation zone

River: All rivers

Scale: Max. anticipated scale

Type: Flood depth

ABOUT THE SCALE AND TYPE

Flood depth

- Less than 50 cm
- 50 cm-less than 3 m
- Above the 1st floor-below eaves
- 3 m-less than 5 m
- Above the 2nd floor-below eaves
- 5 m-less than 10 m

CLEAR SELECTION

多言語(日・英・中・韓・比)での表示の選択が可能

指定した箇所の災害リスク(洪水・土砂・津波)や最寄りの避難所が一覧で表示される

効果

災害リスクが高い箇所を把握することで、住民自らの的確な避難判断につながる。
多言語対応のWeb版ハザードマップにより、外国人も災害リスクを把握することができる。

●高田区・新宮市合同防災訓練

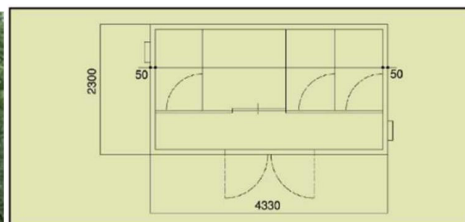
完了

➤ 避難所環境改善のため、国の交付金を活用して新高田会館に新たに設置したトイレコンテナ及びパーテーションなどの資機材の使用訓練を行っていただくことや災害時特設公衆電話の設置訓練、役員による衛生携帯電話の使用訓練を実施しました。

■実施概要

- 実施日 : 令和7年11月16日
- 実施場所 : 新高田会館
- 使用資機材: トイレコンテナ(※平時は右記資機材を格納)・自動パック式トイレ・ワンタッチ式簡易ベッド・ワンタッチパーテーション

■トイレコンテナ



■訓練写真



■自動パック式トイレ



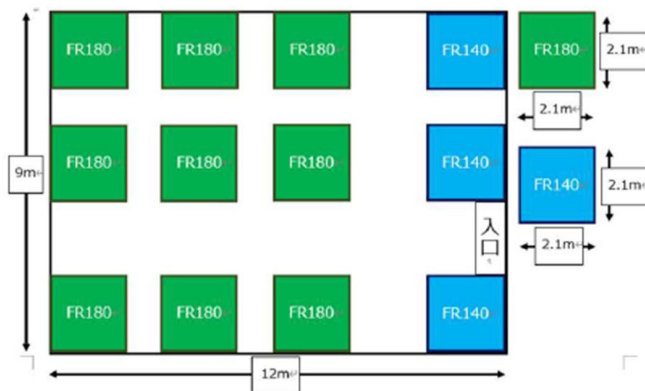
■簡易ベッド



■パーテーション



■設置レイアウト

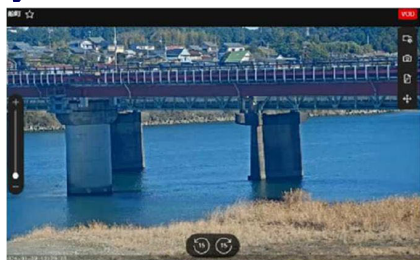


● 河川監視カメラ用投光器の取付

完了

➤ 河川の夜間監視のため、計8か所の河川監視カメラに投光器の取付を行いました。(令和7年9月25日取付完了)

■ 船町



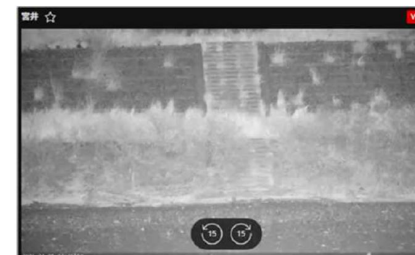
■ 高田自然プール



■ 佐野



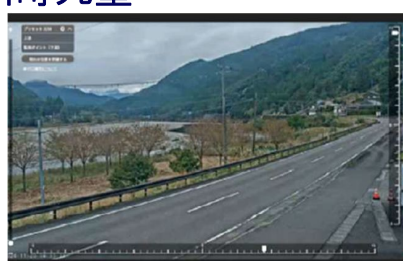
■ 熊野川町宮井



■ 佐野市梨橋



■ 熊野川町九重



■ 高田



■ 熊野川町西敷屋

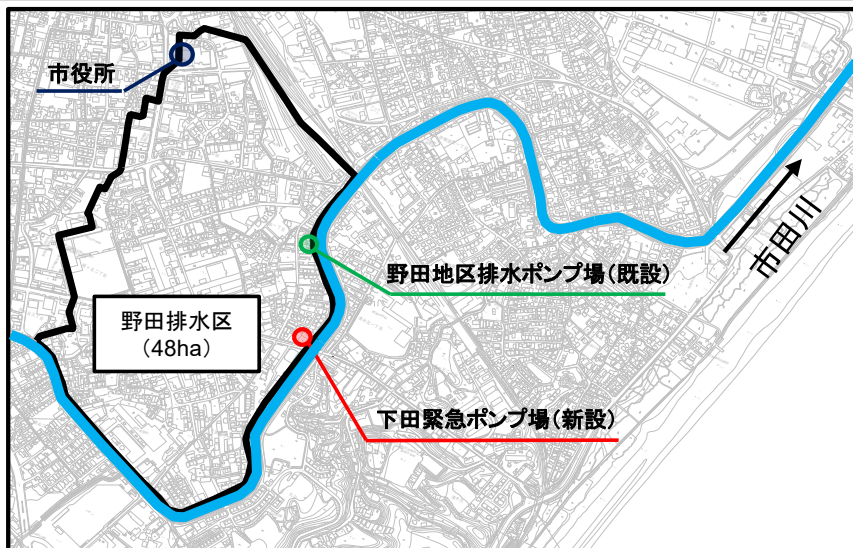


● 下田緊急ポンプ場の完成及び運用

完了

- 平成29年10月の台風21号を契機として、平成31年3月に、より効果的な浸水対策を総合的・一体的に推進するための「市田川流域大規模浸水対策計画」を策定しました。
- 「市田川流域大規模浸水対策計画」における、浸水対策計画(メニュー)のハード対策として、令和2年から用地取得、令和3年から下田緊急ポンプ場整備を行い、令和6年度に完成・運用開始している。

■ 位置図



■ 整備後



■ 整備前



●地区タイムラインの策定

継続

目的

災害時において町・地域との情報共有ができ、的確かつ円滑な避難行動等が行えるとともに、自助・共助・公助による災害対応ができることを目的とする。

策定のポイント

- これまでの災害の経験を活かす。
- 地域の災害リスク等の地域特性を反映する。
- 災害時の活動や行動をお互いに理解する。
- 災害時に、迅速・円滑・的確に対応する。

※ 令和7年10月現在、6地区16自主防災組織が策定済



紀宝町井田区 井田小学校（地下地区） 風水害地区タイムライン

| ステップ | 住居 | 自防会 | 自主防災組織 | 民生委員 | 消防団 | 井田小学校 | 避難 タイムライン |
|-------|---|---------|---------|---------|---------|---------|--------------|
| ステップ1 | 各世帯の3〜5日間の予備用食料確保（※）が完了した場合は【自災時：各世帯の3〜5日間】 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 |
| ステップ2 | 各世帯の3〜5日間の予備用食料確保（※）が完了した場合は【自災時：各世帯の3〜5日間】 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 |
| ステップ3 | 大規模な洪水や土砂崩れなどの危険な状況が発生した場合【自災時：各世帯の3〜5日間】 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 |
| ステップ4 | 土砂災害警戒区域の発生または避難指示の発令【自災時：各世帯の3〜5日間】 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 |
| ステップ5 | 各世帯の最終確認【自災時：9時間】 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 | 自災情報の収集 |

紀宝町タイムラインと地区タイムラインとの連携



地区タイムライン運用による効果 ～自治会・自主防災組織の声～

- 地域地域の集会等でタイムラインの話題が出るようになり、地域の防災意識が浸透してきた。
- 早めに避難を行うことで、食料や下着類を持参して避難するなど、自助の意識も見えてきた。
- 早めに要支援者を福祉施設に送ったり、明るいうちに高齢者を避難させることができた。
- 夜に雨脚が強かったが、支援者の安全も確保できたので、早めの行動の大事さを感じた。
- ピーク時には、消防団も安全な場所に避難できるのでありがたい。

○これまで把握されていなかった、洪水予報河川及び水位周知河川区間を除く県管理河川における水害リスク情報を明らかにすることで、住民の適切な避難行動を確保する。(令和3年水防法改正)

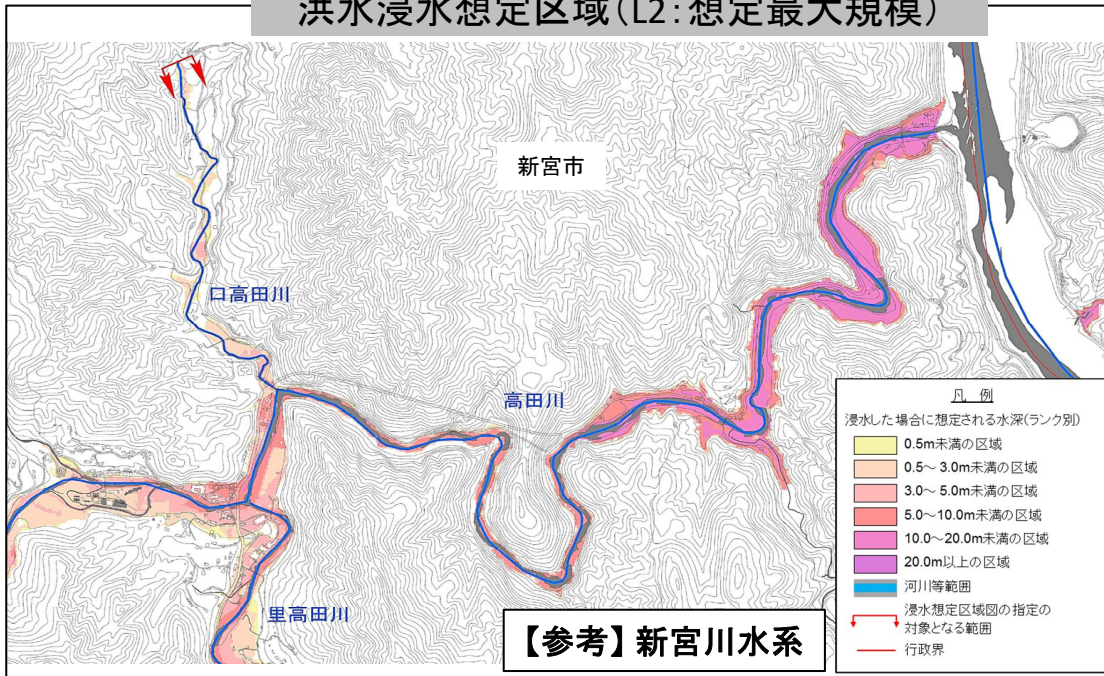
<和歌山県管理の河川>

| | 洪水予報河川 | 水位周知河川 | その他河川 | 計 |
|------|--------|--------|-------|-----|
| 一級河川 | 1 | 3 | 129 | 133 |
| 二級河川 | 3 | 14 | 300 | 317 |
| 計 | 4 | 17 | 429 | 450 |

ぶつぶつ川を除く449の県管理河川について、洪水浸水想定区域図(想定最大規模)を公表済み

今後は洪水予報河川・水位周知河川から多段階浸水想定図の作成を進めていく

洪水浸水想定区域(L2: 想定最大規模)



<洪水浸水想定区域図公表済みの主な河川>
(和歌山県ホームページにて公表)



取組内容

柱②: 情報の一元化や情報発信の見える化等による情報伝達体制の高度化・効率化
 ■ 避難行動、水防活動に繋がる観測施設(水位計、河川監視用カメラ)等の整備・配信

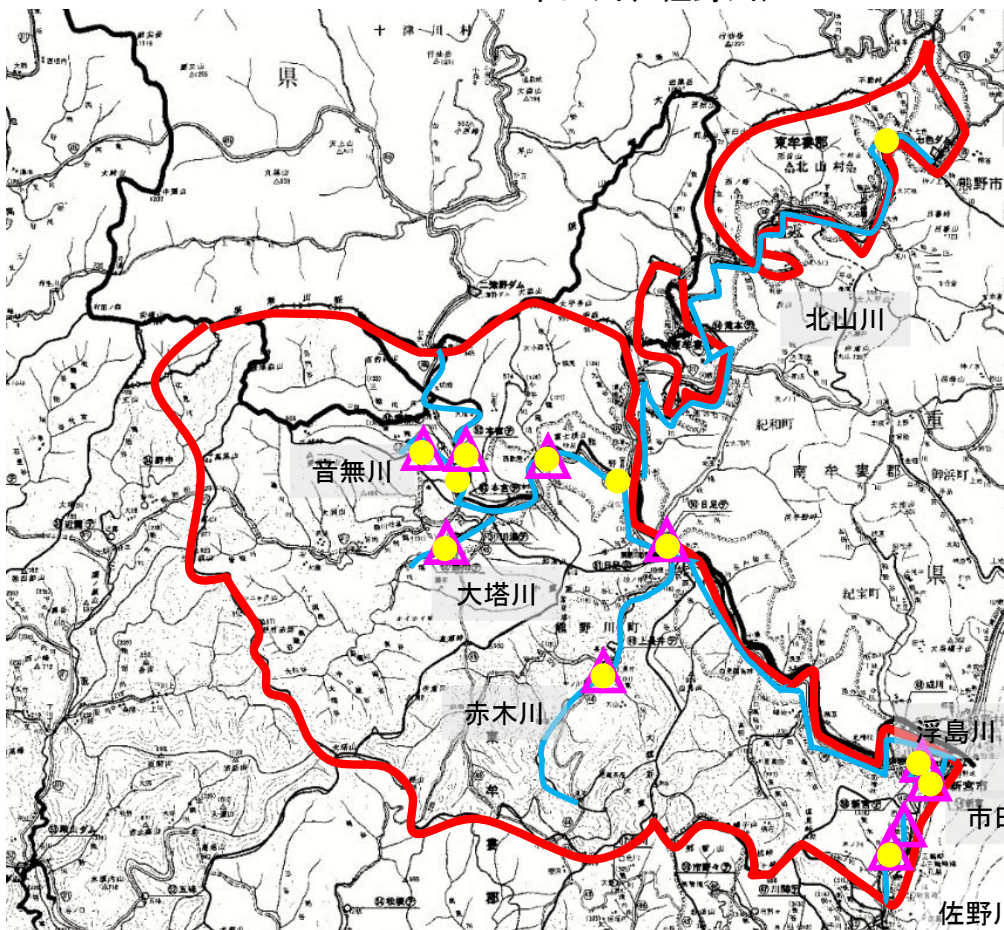
● 水位計、河川監視カメラ等の整備・配信

継続

和歌山県

取組概要

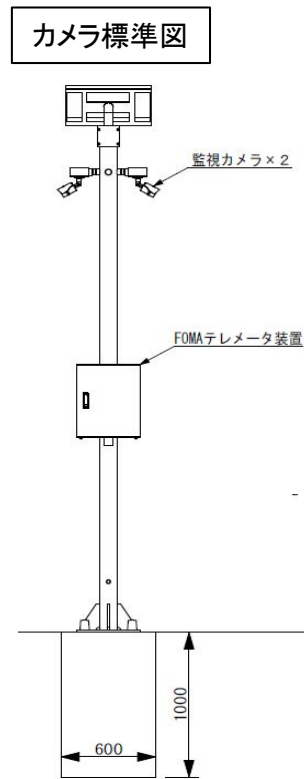
- 県下の洪水予報河川、水位周知河川の各基準観測局における受け持ち区間内の危険箇所や過去に浸水した箇所等を直接監視する河川監視カメラを設置、随時情報を発信
- 水位計、河川監視カメラの設置箇所(令和7年10月末現在)
 - ・ 河川監視カメラ: 12箇所(熊野川、音無川、北山川、大塔川、赤木川、浮島川、市田川、佐野川)
 - ・ 水位計: 10箇所(熊野川、音無川、大塔川、赤木川、浮島川、市田川、佐野川)



凡例
 ●: カメラ
 △: 水位計



設置した河川監視カメラ



カメラ詳細図



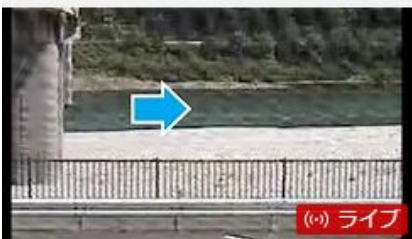
※危険箇所: 洪水予報河川、水位周知河川の各基準観測局において、氾濫危険水位等の水位設定の対象となる箇所

ホームページの改修

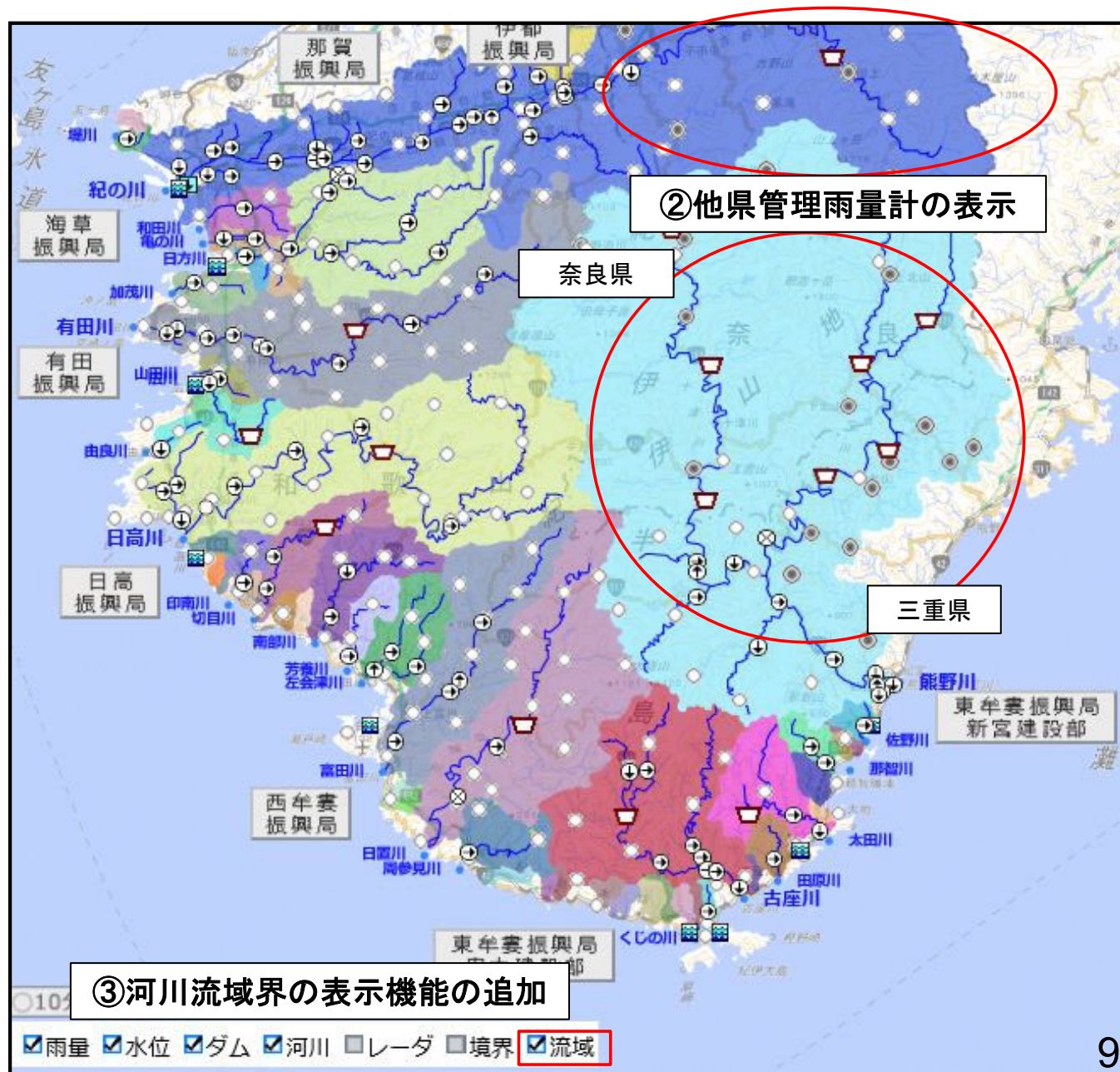
【改修内容】

- ① 河川監視カメラ及び水位計の増設
河川監視カメラ 160箇所 (R7: 1箇所増設予定)
水位計 106箇所 (R7: 1箇所増設予定)
- ② 他県管理雨量計の表示
紀の川の上流域
(奈良県: 20箇所)
熊野川及び北山川の上流域
(奈良県: 12箇所、三重県: 9箇所)
- ③ 河川流域図の表示機能の追加
- ④ 国土交通省 河川監視カメラ映像の表示
(R3年4月～)
- ⑤ 和歌山県 河川監視カメラ映像の表示
(YouTube配信) (R4年10月～)

⑤ 和歌山県 河川監視カメラ映像の表示 (YouTube配信)



日足水位観測所 (熊野川)
和歌山県 東牟婁振興局新宮建設部管内
熊野川 日足水位観測所の河川カメラ映
像の表示が追加されています。



② 他県管理雨量計の表示

奈良県

三重県

③ 河川流域界の表示機能の追加

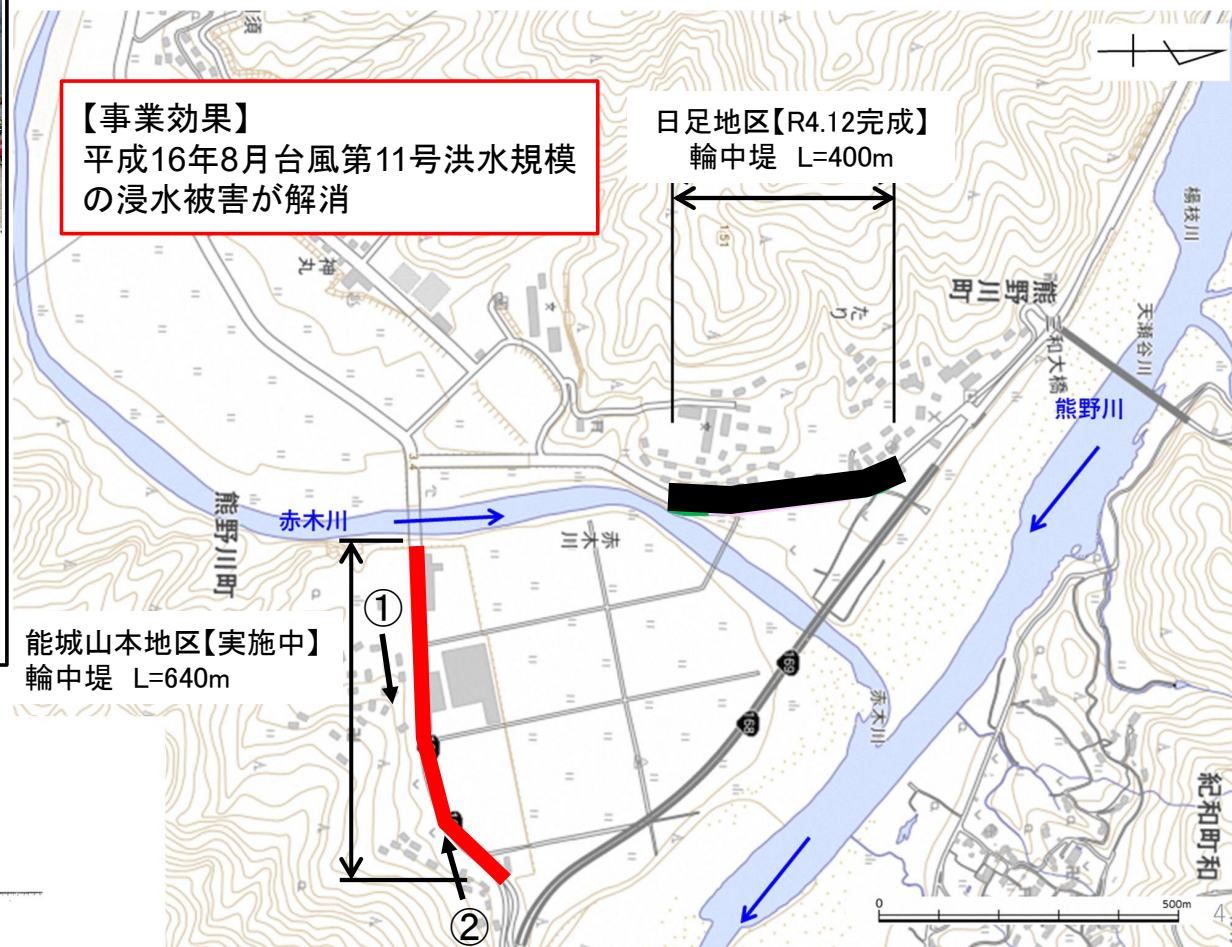
○ 熊野川の日足地区および能城山本地区では、平成16年8月豪雨をはじめ、近年浸水被害が度々発生している状況を踏まえ、浸水被害軽減のため、輪中堤の整備を集中的に実施しています。

事業概要

位置図

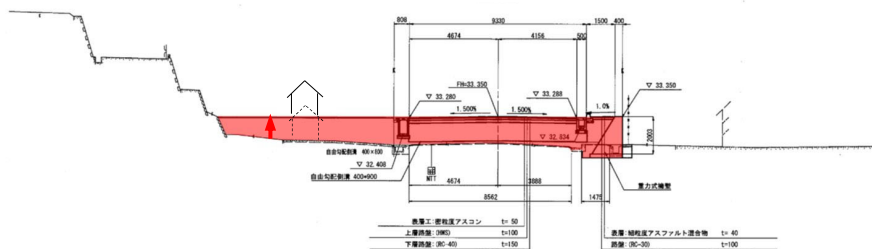


平面図



【事業効果】平成16年8月台風第11号洪水規模の浸水被害が解消

標準断面図(能城山本地区)

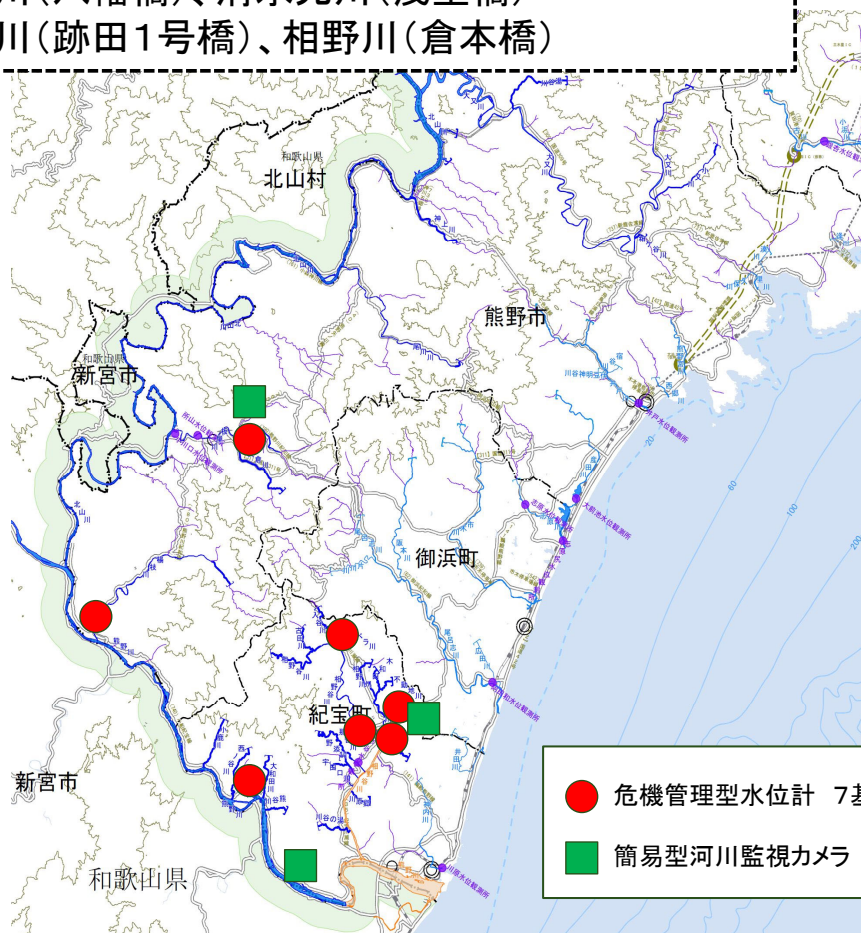


●危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置

【危機管理型水位計の設置】

- ・R6年度までに県内全域で216箇所設置
- ・熊野川流域では、7箇所設置

相野谷川(宮前橋、平野橋)、楊枝川(楊枝橋)
 矢倉川(八幡橋)、清水元川(浅里橋)
 跡田川(跡田1号橋)、相野川(倉本橋)



● 危機管理型水位計 7基
 ■ 簡易型河川監視カメラ 3基

【簡易型河川監視カメラの設置】

- ・R6年度までに県内全域で88箇所設置
- ・熊野川流域では、熊野川(瀬原)、板屋川(矢倉川合流点)、R7では相野川(倉本橋)に設置

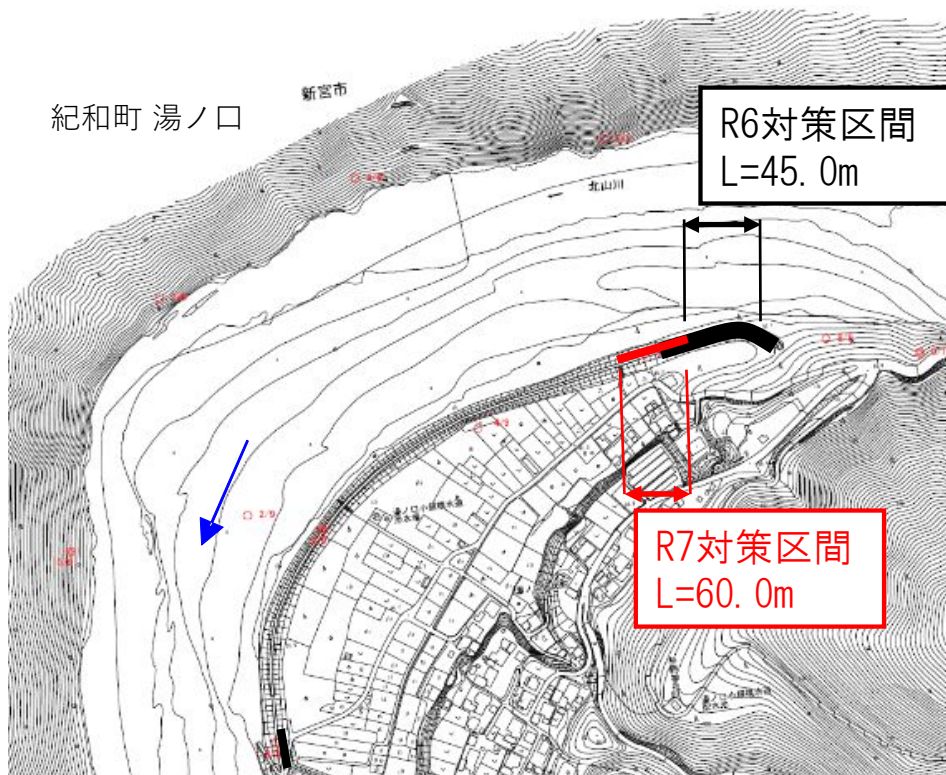


●裏法保護工

【令和6年度の実績】

- ・ R6年度に県内で危機管理型ハード対策を12河川で実施。
- ・ 熊野川流域では、北山川で堤防の裏法保護工などの危機管理型ハード対策を実施。

位置図（北山川）

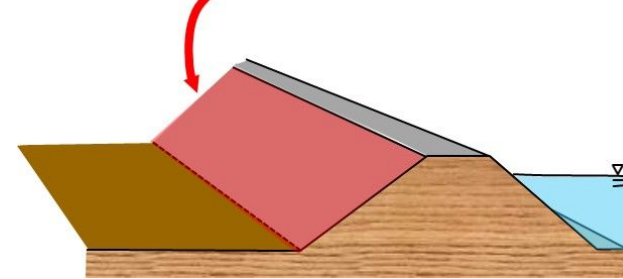


【令和7年度の取組】

- ・ R7年度に県内で危機管理型ハード対策を12河川で実施予定。
- ・ 熊野川流域では、引き続き北山川で堤防の裏法保護工などの危機管理型ハード対策を実施。

施工イメージ

堤防裏法を張ブロック等で補強



事業実施状況（R6年度）



●防災研修及び気象防災ワークショップの実施、小中学校における出前講座の実施

- ▶ 防災気象情報の理解度を深め、その情報の利活用の促進を図ることを目的に、市町職員研修や警察学校において、防災研修及び気象防災ワークショップを実施している。
- ▶ 県内の小中学校において、身近な天気についての知識を身につけ、自分の身を守る防災行動につなげることができるよう、実験等も交えた授業を行っている。

■防災研修及び気象防災ワークショップ



研修を受ける市町職員



検討結果の共有

■小中学校における授業



小学校での授業



中学校でのワークショップ

●Web会議による防災講習会や防災対応訓練の実施、学校等に出前講座を実施

継続

- 防災気象情報の理解度を深め、その情報の利活用の促進を図ることを目的に、自治体職員に対し講習会や防災対応訓練を実施している。
- 防災教育・防災対策に取り組むための知識向上を図るために、依頼を受けて出前講座を実施している。

市町村初任者及び防災担当初任者講習会の実施

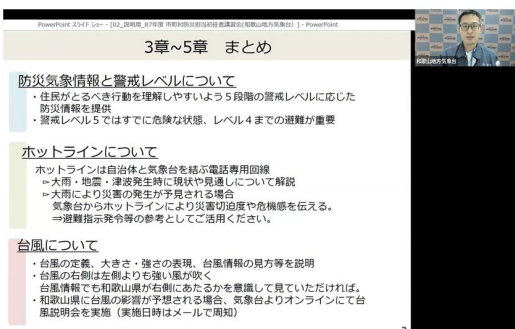
- 日程：令和7年5月16日(金)
- 参加者：県内の自治体職員

市町村初任者講習会：40分

1. 「気象の見直し資料」について
2. 気象庁ホームページの見方(気象)
3. 気象庁ホームページの見方(地震)

市町村防災担当初任者講習会：80分

1. 大雨などの地域特性
2. 気象警報・注意報について
3. 防災気象情報と警戒レベルについて
4. 「ホットライン」について
5. 台風について
6. 地震について



学校での出前講座

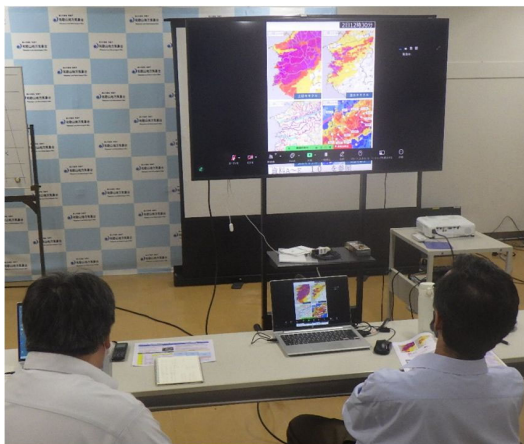


R7.6 田辺高等学校

キキクルを活用した防災対応訓練の実施

- 日程：令和7年5月19日(月)
- 参加者：県北部の4振興局と12市町

令和5年6月の線状降水帯発生事例を用い、気象台がコントローラー役としてキキクル等の情報をタイムラインに沿って提示し、自治体はその情報を受けて、推定被害の収集や避難判断等の流れを確認する防災対応訓練を実施した。



R7.7 和歌山大学



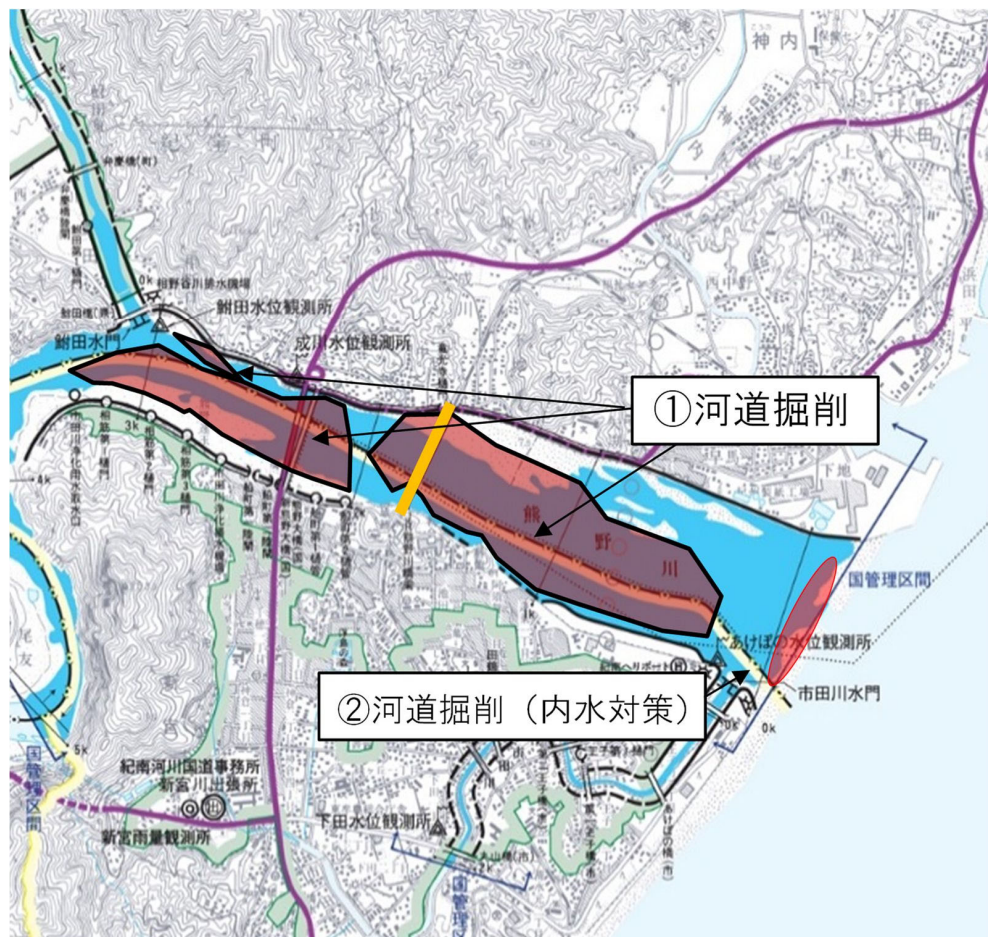
R7.7 和歌山市立小学校

●熊野川における河道掘削

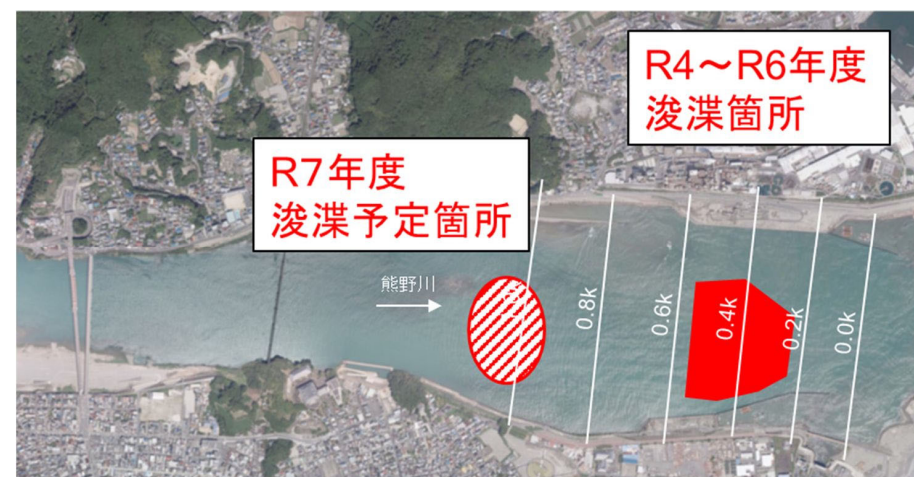
継続

- 令和3年10月に全国に先駆け、気候変動の影響を考慮し、新宮川河川整備基本方針（変更）を策定し、次ぐ令和4年3月に新宮川水系（熊野川）河川整備計画を策定しました。
- 整備計画流量を安全に流下させることを目標とし、更なる治水安全度向上のため、段階的な河道掘削を実施しています。

■熊野川河道掘削計画範囲



■熊野川河道掘削実施状況



■各年度の進捗状況

| 各施策の実施状況 | 河川名 | 距離標 | 整備計画における目標量(万m ³) | 実施数量・実施の有無(万m ³) | | | | 総実施済量(万m ³) | 進捗率(%) |
|----------|-----|-----------|-------------------------------|------------------------------|-----|------|-------|-------------------------|--------|
| | | | | R4 | R5 | R6 | R7 予定 | | |
| 河道掘削 | 熊野川 | 0.0k~3.4k | 570 | 13.6 | 3.8 | 10.6 | 10 | 28 | 5% |

●WEB会議による危機感の共有

継続

- 令和7年度台風15号において、熊野川流域でも影響が見込まれたため、熊野川流域タイムラインのWEB会議による危機感共有、及び紀宝町タイムライン連携会議を開催しました。
- 開催にあたり、紀南河川国道事務所から、予測雨量に基づいた水位見通し等の情報提供を行い、関係機関の情報共有等を図るとともに、事前防災行動等の確認を行いました。今後も台風等の大雨等が予想される際には、タイムラインを通じて、関係市町村との連携を深めていきます。

■熊野川流域タイムライン WEB会議による危機感共有

■紀宝町タイムライン連携会議



●熊野川中学校における防災授業

継続

- 地域の防災力向上のための取り組みの一環として、新宮市立熊野川中学校で防災授業を開催しました。
- 本年度は、近年の全国的な水害や熊野川流域の水害から水害の危険性を学んだ後、浸水歩行体験を通じて水害の危険性を実際に体験していただき、事前避難の重要性をお伝えしました。
- また、新宮市より避難物資の流通について、和歌山県より和歌山県防災ナビの使い方について、ご紹介いただきました。

■令和7年度
 防災授業

■日 時: 令和7年12月8日(月) 5限、6限

■参加者: 紀南河川国道事務所4名、新宮市2名、和歌山県2名、生徒16名、教員10名、地域住民9名

水害について学ぶ様子



浸水歩行体験



生徒の感想

■熊野川流域の水害を学んで

- ・紀伊半島豪雨の時に体育館まで浸水していたのが怖いと感じた。
- ・紀伊半島豪雨の話は、「丸太やゴミだらけで歩けない」や、「風呂も使えない」と家族から聞いた。
- ・避難放送を聞いたらすぐに避難するほうがいいことを学んだ。

■浸水歩行体験をして

- ・足を入れた瞬間に流される感覚があった。
- ・濁水で底が見えない恐怖があり、外に出るのが怖いと感じた。
- ・障害物を避けながら歩くのが難しかった。
- ・浸水時は歩くのに時間もかかるし、下を見ていて前が見えていないので危険性がとても高いと感じた。

■新宮市と和歌山県の話提供を聞いて

- ・今は家に備蓄をしていないため、家に帰ってから防災バッグなど準備したい。
- ・自分でできることは何かを改めて考えるきっかけになった。
- ・和歌山県防災ナビを入れて、家が安全かどうかを確認したい。

避難物資流通方法の紹介(新宮市)



防災ナビの紹介(和歌山県)



●報道・中継訓練

継続

- 和歌山県域メディア連携協議会の取組として、報道・中継訓練を計2回実施しました。1回目はNHK和歌山放送局・和歌山地方気象台とテレビ放送を想定して実施、2回目は株式会社和歌山放送と和歌山地方気象台とラジオ放送を想定して実施しました。
- 訓練を通して円滑な情報伝達を行えるように、メディア機関の助言を受け、よりの確かつ切迫感のある表現を検討するとともに、出水時の緊急的な放送に備えて、メディア機関と行政機関間の連携強化を図りました。

■報道・中継訓練（テレビ）

- 日 時: 令和7年12月10日(水) 14:00~15:00
- 方 法: WEB会議
- 参加者: NHK和歌山放送局、和歌山地方気象台、紀南河川国道事務所



意見交換状況(Teams)



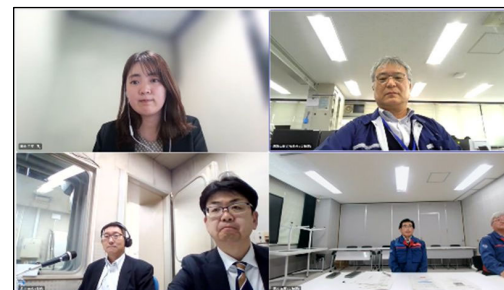
訓練実施状況(紀南河川国道事務所)

■意見交換内容(抜粋)

- 「川の防災情報」の見方や視聴者が具体的にどのように行動すればいいかをわかりやすく教えていただいた。また、災害の見通しの難しさの中で、文章を工夫していただいたのが非常に分かった。迷った際は視聴者が知りたいことを考えて判断をしていただければと思う。(NHK和歌山放送局)
- 緊急の説明を想定して今回は訓練を実施したが、ホームページでの説明が主体となると考えている。そのため、今後は気象台のホームページを使って視聴者の皆さんに少しでも見てもらえるような形をやっていければと思う。(和歌山地方気象台)

■報道・中継訓練（ラジオ）

- 日 時: 令和8年1月13日(火) 14:00~15:00
- 方 法: WEB会議、電話
- 参加者: 株式会社和歌山放送、和歌山地方気象台、紀南河川国道事務所



意見交換状況(Teams)



訓練実施状況(紀南河川国道事務所)

■意見交換内容(抜粋)

- 「雨量●mm」とはどれくらいの量かなど、リスナーにどのようにイメージを持ってもらうかを意識した。ホームページの活用についても、アナウンサーとのやり取りがあると、リスナーの利用にもつながると感じた。(和歌山地方気象台)
- ラジオは音声情報のみのため、情報の取捨選択を意識してお伝えした。電話で情報をお伝えしながら、WEB会議で画面を共有して放送できることも確認できた。(紀南河川国道事務所)
- 電話とWEB会議(主回線・副回線)で実施することができてよかった。ラジオは音声のみのメディアのため、命を守るための行動の呼びかけなど、重要な部分を繰り返し念押しでお伝えしている。(和歌山放送)